

【第2回】アンケート用紙

ワークシート①

アンケート結果を参考に、以下のとおり、要配慮者の有無ごとに「標準的な行動フロー」を整理しました。あなたが以下のいずれかの行動をする場合に、どのような課題(世帯レベルと地区レベル)が生じるか考えてみましょう。

地震発生後の想定日数 1日(津波警報解除前)	要配慮者なし世帯			要配慮者あり世帯		
	①地区内に留まる場合	②地区外に避難する場合	③地区内に留まる場合	要配慮者	要配慮者	④地区外に避難する場合
2日(津波警報解除後) 昼間	【自宅】 ・自宅の点検 ・1週間の食料等の調達 ・夜間に避難所で稼泊りするための準備	【自宅】 ・自宅の点検 ・自宅以外で生活するための準備 ・親類・知人宅までの交通状況の確認 ・要配慮者の誘得	【自宅】 ・自宅の点検 ・1週間の食料等の調達 ・要配慮者が1週間避難所生活するための準備 ・要配慮者の誘得	要配慮者 緊急避難場所(避難タワーや避難ビル等)に留まる	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者
2日(津波警報解除後) 夜間	【避難所】 ・稼泊り ・避難所での役割分担決め ・避難所での役割分担決め	【親類・知人宅など】 ・親類・知人宅での生活	【避難所】 ・稼泊り ・避難所での役割分担決め ・屋間の要配慮者支援のお願い・準備 →できない場合は、要配慮者とともに、原則は避難所生活	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者
3日~7日 昼間	【自宅又は勤務地】 ・通常生活	【自宅又は勤務地】 ・通常生活	【自宅又は勤務地】 ・通常生活 ・要配慮者と随時連絡	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者
3日~7日 夜間	【避難所】 ・稼泊り ・避難所での役割をこなす	【親類・知人宅など】 ・親類・知人宅での生活 ・勤務地まで通える場合は、仕事もできる	【避難所】 ・要配慮者とともに稼泊り ・避難所での役割をこなす	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者
世帯レベルの課題	例) 昼間に自宅で被災した場合に、早急に逃げられるようにする必要がある	例) 一度自宅を離れると、1週間自宅に戻れない	例) 自身が不在の場合の要配慮者支援を依頼する必要がある(依頼できない場合には、自身が常に付き添わなければならない)	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者
地区レベルの課題	例) 既存の避難所で、夜間の避難者数を収容できるか検証する必要がある	例) 避難所を運営する人手が不足する可能性がある	例) 昼間に避難所で、要配慮者を支援するための人が必要になる	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者	要配慮者 要配慮者

ワークシート②

事前避難想定人数(推計値)

津波浸水想定区域内の人口:1,472人

65歳以上の方の人口比率
49.4%(土肥地区内)

うち65歳以上の方の人口:727人

平成29年度介護保険事業年報
要介護・要支援の認定者/被保険者数
15.6%(静岡県平均)

うち要介護・要支援の認定者の人口:113人

事前避難先の候補

名称	収容人数	指定避難所	津波浸水なし	土砂災害なし	畳あり	個室あり	温泉あり
小中一貫校体育館	319	○	○				
小中一貫校武道場	不明		○		○ 100畳		
旧小学校体育館	311	○					
旧小学校北校舎	不明						
伊豆総合高校	不明		○	○			
土肥分校体育館	不明		○	○	○		
伊豆総合高校	不明		○	○	○		
土肥分校武道場	不明		○	○	○		
伊豆総合高校	不明		○	○	○	○	○
土肥分校輝潮館	不明				○ 66畳		
伊豆市役所土肥支所	不明						

※ 津波浸水なし:津波浸水想定区域内に建物が立地しない

※ 土砂災害なし:土砂災害警戒区域又は土砂災害特別警戒区域に建物が隣接しない

※ 畳あり:和室や柔道用の畳(避難用途で使用できるかは不明)を備えている

Q.あなた(家族を含む)が事前避難する場合には、上記以外にも結構ですか?
(好ましい避難先があれば、上記以外でも結構です。)

【健常者の避難先】

【要配慮者の避難先】

Q.左記の避難先で避難生活をする上での課題があれば記載してください。

【健常者の避難先】

【要配慮者の避難先】

【第3回】説明用資料

「南海トラフ地震臨時情報」を活かした
防災対応を地域で考える会

令和元年11月27日
静岡県危機管理部

《本日の内容》

- ①行政はこうしたい【前回提示した検討案】
- ②アンケート結果
- ③行政はこうしたい(修正案)
+ 皆さんにこうしてほしい

1

《これから考えていくこと》

臨時情報(巨大地震警戒)のときは

「日頃の備え」+α(プラスアルファ)

津波到達までに明らかに避難が完了
できない住民は1週間の事前避難

2

国のガイドラインでは・・・

事前避難が必要なエリア=事前避難対象地域

- 健全者を含む地域の全住民が事前避難
住民事前避難対象地域
- 要配慮者等(高齢者、障害者、乳幼児)が事前避難
高齢者等事前避難対象地域

3

《この地域における津波リスク》

【健全者の津波からの避難】
市街地の浸水開始時間: 7分
避難開始時間: 4分
避難速度: 1.0m/秒 (60m/分)
円の中心は津波避難施設
円の外側は津波到達までに逃げ切れない

津波到達時間が早い
⇒突発地震の津波から逃げ切れない方が多い

4

この地域の事前避難のあり方(案)

- ・津波到達時間が早い
⇒突発地震の津波から逃げ切れない方が多い
- ・要配慮者は事前避難で安全を確保したい
- ・「避難所で生活する」というニーズがある(←アンケート結果)

《行政としてはこうしたい》

- ・住民事前避難対象地域を設定
- ・津波警報解除後、上記地域に「避難勧告」を発令
- ・事前避難先として避難所(体育館)を開設

5

《半割れのときのタイムライン》

	地震発生直後~30分	地震発生当日	2日目	3日~7日
この地域の状況	地震(震度5程度) わずかな津波	← 電気・ガス・水道等は使用できる →		
国等からの情報	緊急地震速報 大津波警報	臨時情報(緊急) 臨時情報(注意)	津波注意報	
市が発信する情報	避難指示(緊急) 避難ビル等に緊急避難を促す	避難勧告 引き続き、1週間避難継続を促す		

6

この地域の事前避難のあり方(案)

《臨時情報発表後に、この地域で想定されること》

- ・沿岸部の幹線道路は通行抑制⇒日用品が不足?
- ・学校は休校となることが濃厚(最終的には各学校が判断)
- ・企業は通常営業を努力するが、人員不足?

《この地域の共通目標》

1週間は、津波による被災リスクを
確実に減らす!

7

《本日の内容》

- ①行政はこうしたい【前回提示した検討案】
- ②アンケート結果
- ③行政はこうしたい(修正案)
+ 皆さんにこうしてほしい

8

世帯レベル・地区レベルの課題

世帯レベルの課題

- できるだけ自宅にいたい(6人)
- 水・食料の確保が心配(7人)

地区レベルの課題

- 防犯対策が必要(4人)

9

事前避難先の候補

健康者向け



要配慮者向け



既存の避難所(旧土肥小、小中一貫校)以外の施設として、旅館、土肥分校、土肥支所がある

10

事前避難先の候補の受入可能人数

この地域の浸水区域内の世帯数及び人口 : 755世帯、1,472人

行政区分	施設名	畳あり	個室あり	温泉あり	受入可能世帯数	受入可能人数
中浜	土肥館<新館>	○	○	○	15	128
	土肥温泉材料みなみ荘	○	○	○	30	199
	土肥ふじやホテル	○	○	○	40	227
	土肥観光ホテルの花亭	○	○	○	41	241
	土肥クラブ 行明浴場	○	○	○	39	232
	大江戸温泉物語土肥2128	○	○	○	62	308
馬場	大江戸温泉物語土肥2128	○	○	○	26	135
	計				253	1,611
【公共施設】	伊豆市役所土肥支所	○			3	173
	旧小学校 北校舎				6	268
	土肥小中一貫校 武道場	○			1	56
	伊豆総合高校土肥分校 武道場	○			1	121
	伊豆総合高校土肥分校 体育館	○	○	○	4	32
計				15	650	

※畳空間は2畳/人、床空間は3㎡/人で算出

旅館と公共施設を合わせれば、1世帯で1部屋は難しいが、受入可能人数は十分でも、頼れる親類・知人宅へ行ける方はそれが理想的

11

《本日の内容》

- ①行政はこうしたい【前回提示した検討案】
- ②アンケート結果
- ③行政はこうしたい(修正案) ← 課題
+ 皆さんにこうしてほしい

12

この地域の事前避難のあり方(修正案)

できるだけ自宅にいたい(6人)

《行政としてはこうしたい(修正案)》

昼と夜で、地域設定・避難情報・避難先を変える

	昼	夜
地域設定	高齢者等事前避難対象地域	住民事前避難対象地域
避難情報	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告
健康者の避難先	自宅	事前避難先
要配慮者の避難先	事前避難先	

13

住民事前避難対象地域内の施設は・・・
(下線部は国のガイドラインでの記載内容)

- 道路: 車両の走行が抑制される
⇒ 地域内の物流が滞るかも?
日用品が補充されなくなるかも?
- バス: 津波による危険性の回避措置を実施
⇒ 地域内が運行規制されるかも?
バスによる移動ができないかも?
昼は制約がなくなる⇒影響を小さくできる

14

《半割れのときのタイムライン》

	地震発生直後~30分	地震発生当日	2日目	3日~7日
この地域の状況	地震発生直後 わずかな津波	電気・ガス・水道等は使用できる		
国等からの情報	緊急地震速報 大津波警報	臨時情報 津波注意報	津波注意報	
市が発信する情報	避難指示(緊急) 避難ビル等に緊急避難を促す	昼 避難準備・高齢者等避難開始	夜 避難勧告	

15

皆さんにこうしてほしい(1)

水・食料の確保が心配(7人)



自宅や地域での備えの増強(1週間以上)

今後、引き続き議論が必要

一人暮らし高齢者の食料等のサポート体制

16

皆さんにこうしてほしい(2)

防犯対策が必要(4人)



個人:一度自宅に戻った際に戸締りを忘れずに
地域:消防団等による巡回

17

《この地域における事前避難のあり方》

臨時情報(巨大地震警戒)が発表されたときは、
健全者は、昼は自宅、夜は事前避難先に
要配慮者は、終日避難先に 1週間事前避難する

- ・事前避難先は既存の避難所(小中一貫校、旧小学校)の他に旅館、土肥分校、土肥支所を活用する
- ・事前避難先の受入可能人数は十分確保できているが、頼れる親類・知人が内陸にいる方は、地区外の親類・知人宅に行くことが望ましい
- ・自宅や地域での備えの増強(1週間以上)することが望ましい
- ・防犯対策として、戸締りの徹底や地域で巡回することが望ましい

今後、具体的に訓練を行っていきたい

18

《引き続き議論が必要な課題》

- ・一人暮らし高齢者の食料等のサポート体制
- ・事前避難する際の医療体制
- ・事前避難先での要配慮者の援助方法
- ・発災後の孤立リスクへの対応
- ・他地域(小土肥、八木沢等)からの避難者の受入れ

他地域(市内、近隣市町)の動きを踏まえて
引き続き、考えていきたい

19

【第3回】アンケート用紙

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表後の避難先について

年齢	性別	お住まいの所在地	勤務先の所在地	家族構成
歳	男・女	津波浸水区域内・津波浸水区域外 住所[]	土肥区内 伊豆市内 隣接市町 その他()	(ご家族の中に、高齢者、障害者、乳幼児等、災害時に特に配慮を要する方（要配慮者）がいらっしゃる場合は該当箇所に○印をお願いします。) 家族構成【例】自分、妻、長男、母 要配慮者【高齢者、障害者、乳幼児、その他()】

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された際には、1週間の事前避難が求められています。

この地域では、夜は（要配慮者は昼も）事前避難先に避難してもらおうよう促す予定です。

この地域における事前避難先の候補地

《旅館・ホテル》

行政区名	施設名	骨あり	個室あり	温泉あり	施設名	骨あり	個室あり	温泉あり	受入可能部屋数	受入可能人数※
中 兵	土肥館<新館>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	伊豆市役所土肥支所	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	175
	土肥温泉ホテルみなみ荘	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	旧小学校 北校舎	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	6	268
	土肥ふじやホテル	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	土肥小中一貫校 武道場	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	50
	土肥観光ホテル湯の花亭	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	伊豆総合高校土肥分校 武道場	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	121
	土肥カント ホテル明彦館	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	伊豆総合高校土肥分校 種清館	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4	32
屋 形	大江戸温泉物語土肥リゾート	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	海花亭いすみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		

《公共施設》

行政区名	施設名	骨あり	個室あり	温泉あり	受入可能部屋数	受入可能人数※
平 野	伊豆市役所土肥支所	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	15	128
	旧小学校 北校舎	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	30	199
	土肥小中一貫校 武道場	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	40	277
	伊豆総合高校土肥分校 武道場	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	41	241
屋 形	伊豆総合高校土肥分校 種清館	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	39	373
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	62	308
馬 場		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	26	135

1. あなたなら、どこに事前避難しますか？（上の一覧を参考に記入してください。）

例) 内陸の親戚宅

例) ○○ホテルの和室

2. その理由を教えてください。

例) 親戚とは気心の知れた仲だから（気を選わなくてよい）

例) 要配慮者と介護者が一緒に寝泊まりできる個室があるから

例) 畳の上で休めるから

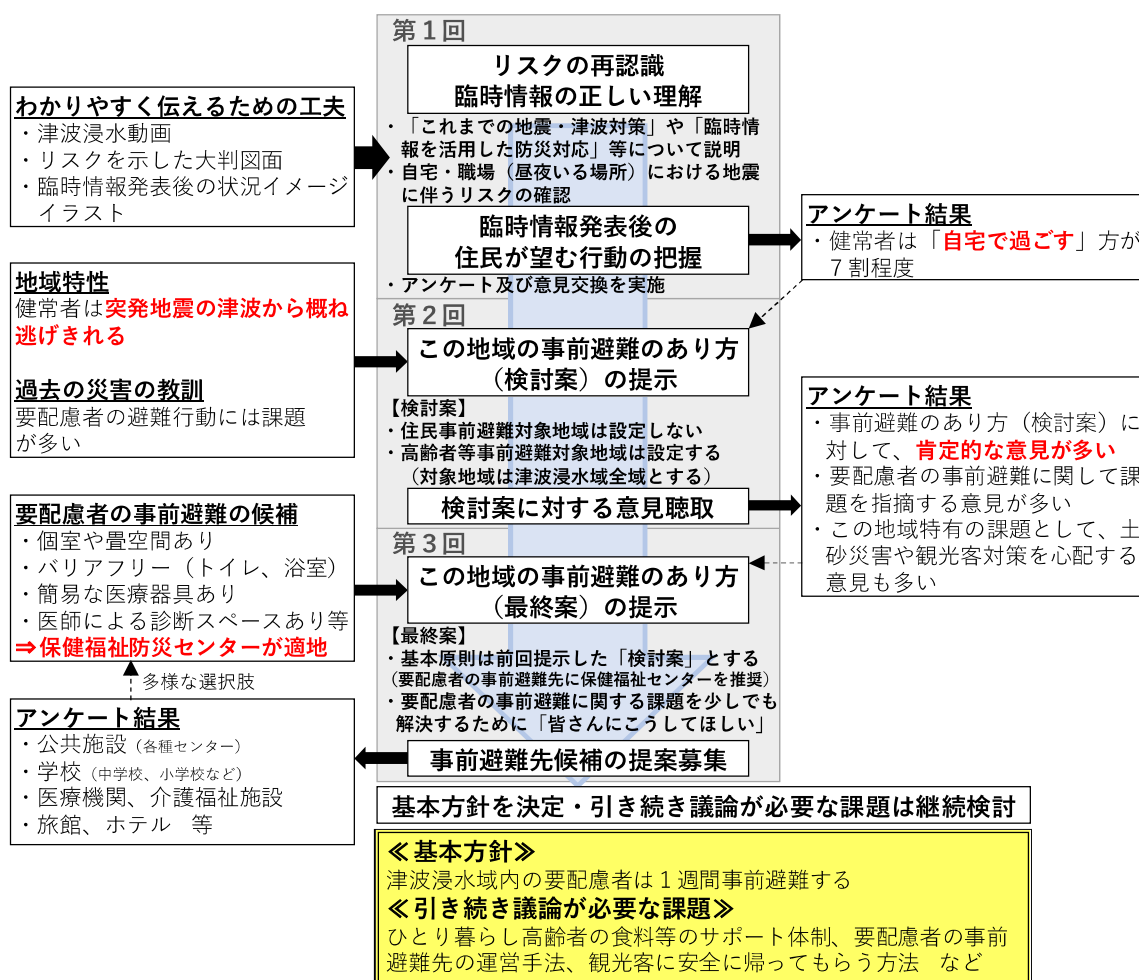
例) 車いす使用者や聴覚障害者でも使用できるバストイレがあるから

4. 河津町における検討

(1) 検討の流れ

河津町では、浜地区において住民参加型のワークショップを合計3回開催した。対象地区は、観光が主要産業であり、津波浸水域内に学校が立地することから、観光関係者や学校関係者に出席してもらえよう調整した。

	第1回	第2回	第3回
日時	令和元年9月10日(火) 19:30~21:00	令和元年10月30日(水) 19:00~21:00	令和元年12月3日(火) 19:00~20:30
場所	河津町浜地区公民館		
出席者	住民代表、観光・学校関係者 など 21名	住民代表、観光・学校関係者 など 30名	住民代表、観光・学校関係者 など 22名
テーマ	・リスクの再認識 臨時情報の正しい理解 ・臨時情報発表後の 住民が望む行動の把握	・この地域の事前避難の あり方(検討案)の提示 ・検討案に対する意見聴取	・この地域の事前避難の あり方(最終案)の提示 ・事前避難先候補の提案募集



(2) ワークショップの概要

<河津町第1回プログラム> (90分)

- ①開会 (5分)
- ②「これまでの地震・津波対策」の説明 (10分)
 - (内容) ・東海地震説 ・東日本大震災の教訓 ・静岡県の地震津波対策
 - ・河津町に襲来する津波(津波浸水動画(p82参照)の視聴) ・河津町の津波対策
- ③自宅・職場(昼夜のいる場所)における地震に伴うリスクの確認 (15分)
 - (ワーク①) ・大判地図を使って自宅・職場の地震に伴う津波・土砂災害等のリスクを確認
 - ・緊急避難場所の位置と避難距離を確認
- ④「警戒宣言から臨時情報へ」の説明 (15分)
 - (内容) ・臨時情報が発表されるケース ・臨時情報の種類 ・警戒宣言と臨時情報の違い
- ⑤「臨時情報を活用した防災対応とは」の説明 (10分)
 - (内容) ・求められる防災対応 ・日頃からの地震への備えとは
 - ・新たに求められる防災対応 ・臨時情報発表後の状況イメージイラスト(p83~86参照)
 - ・本日のまとめ
- ⑥臨時情報が発表された時の行動の意見交換 (30分)
 - (ワーク②) ・臨時情報が発表された時の行動をアンケート用紙に記入し意見交換
- ⑦閉会 (5分)

初回は、参加者に、“突発地震に対するリスクを再認識”してもらい、新しく発表されることになった”南海トラフ地震臨時情報を正しく理解”してもらうことを目的に実施した。

参加者にわかりやすく伝わるよう、津波浸水動画や津波等のリスクを示した大判地図、臨時情報発表後の状況をイメージしたイラストを示した。

緊急避難場所の位置と避難距離を確認



臨時情報が発表された時の行動の意見交換 (ワーク②)

臨時情報が発表された後に、住民がどのような行動をとるかをアンケート用紙に自由に記述してもらい、その内容について意見交換を行った。

有識者からの助言
(静岡大学原田准教授)



その場で出た意見

- ・地震が発生してからの避難でも間に合うので自宅で過ごす。
- ・事前に行政と宿泊施設等との間で協定を締結しておいた方が良いのではないか。(観光協会)
- ・避難所を開設しながら普段の授業を継続できるか懸念がある。河津在住以外の職員が出勤できるか、海沿いの生徒が登校できるか、など心配なことは多い。(学校関係者)

アンケート結果

- ・自宅が津波浸水域内外に関わらず、「**自宅で過ごす**」という方が**約7割**であった。
- ・自宅が浸水する方のうち、7割以上の方は「地震後の避難で間に合う」と認識した上で「自宅で過ごす」と回答している。

＜河津町第2回プログラム＞（120分）

- ①開会（10分）
- ②「臨時情報とは【前回の復習】」の説明（10分）
（内容）・第1回WS内容の復習
- ③「アンケート結果」の報告（10分）
（内容）・臨時情報が発表された時の行動のアンケート結果について
・第1回における質問に対する回答 ・要配慮者に関する過去の災害での教訓
- ④臨時情報が発表後の1週間の行動の意見交換（30分）
（ワーク①）・臨時情報が発表後の行動を1週間の時間軸でアンケート用紙に記入し意見交換
・アンケート用紙には「現在の自分の場合」と「自力で動くことが難しい場合」に分けて、行動とその時に心配なことを記入
- ⑤この地域の事前避難のあり方（検討案）（20分）
（内容）・事前避難対象地域の種類（国ガイドライン） ・河津町の津波からの避難について
・事前避難対象地域を設定した場合の影響 ・この地域の事前避難のあり方（検討案）
- ⑥この地域の事前避難のあり方（検討案）の意見交換（30分）
（ワーク②）・本案に対する意見をアンケート用紙に記入し意見交換
- ⑦閉会（10分）

第2回は、第1回にいただいた意見（できるだけ自宅にいたい）や地域特性（健常者は津波から逃げ切れる）を踏まえて検討した「この地域の事前避難のあり方（検討案）」を示し、これに対する意見を伺うことを目的に実施した。

避難行動に関する過去災害での教訓

過去の災害における教訓を調査し、要配慮者の避難行動には課題が多いことを示した。

また、東日本大震災において復興に携わった方に、避難所生活の苦悩と事前対策の必要性について講話をしていただいた。

講話の様子



臨時情報が発表後の1週間の行動のアンケート結果（ワーク①）

- ・臨時情報が発表されてから1週間の行動は「**2日目以降は自宅で過ごす**」方が多かった。

この地域の事前避難のあり方（検討案）の意見交換（ワーク②）

以下の事前避難のあり方（検討案）を示した。	その場で出た意見
<ul style="list-style-type: none"> ●住民事前避難対象地域は設定しない ・健常者は、地震発生後でも津波避難施設にすぐに避難すれば、津波から概ね逃げ切れる ・アンケート結果より、すぐに避難できる状態にして、「自宅で過ごす」方が多い ●高齢者等事前避難対象地域は設定する（対象地域は津波浸水域全域とする） ・要配慮者は事前避難で安全を確保したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主避難する人もいる為、多くの方が事前避難するのではないかと ・学校は津波浸水域外だが、臨時情報が発表された場合、遠方に避難する生徒もいるため、通常の学校運営は難しい。休校になれば学校を事前避難先として活用できる。（学校関係者）
	アンケート結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・検討案に対して、肯定的な意見が多かった。 ・津波と同様に土砂災害を心配する声や観光客を安全に帰すことが課題など、この地域特有の意見が挙がった。

＜河津町第3回プログラム＞（90分）

- ①開会（5分）
- ②「行政はこうしたい【前回提示した検討案】」の説明（35分）
（内容）・高齢者等事前避難対象地域の明示 ・町が発信する情報のタイムライン
- ③「アンケート結果」の報告（5分）
（内容）・臨時情報が発表後の1週間の過ごし方について ・検討案に対する意見
- ④皆さんにこうしてほしい（15分）
（内容）・この地域の要配慮者数（推計値） ・事前避難先に求められる機能
・皆さんにこうしてほしい ・この地域における事前避難のあり方（最終案）
・残ってしまう課題の共有
- ⑤事前避難先として活用できそうな施設について（25分）
（ワーク）・事前避難先として活用できそうな施設とその理由を調査票に記入し意見交換
- ⑥閉会（5分）

第3回は、第2回にいただいた意見（要配慮者の事前避難についての課題）を踏まえて「この地域における事前避難のあり方」を再整理し、「住民に協力してほしいこと」と「引き続き議論が必要な課題」を共有する目的で実施した。

この地域における事前避難のあり方

第2回のアンケート結果より、検討案に対して肯定的な意見が多かったことから、検討案は変更しないこととし、高齢者等事前避難対象地域を明示した。

また、町が発信する情報のタイムライン（右記）を示した。



「住民に協力してほしいこと」と「引き続き議論が必要な課題」

第2回のアンケート結果（事前避難する上での課題）を踏まえて、「住民に協力してほしいこと」（右記左図）と「引き続き議論が必要な課題」（右記右図）を提示した。

住民に協力してほしいこと	引き続き議論が必要な課題
<ul style="list-style-type: none"> 「要配慮者だけで事前避難するのは難しい」について 同居する要配慮者が事前避難先に避難する場合 家族も一緒に事前避難してほしい 「事前避難する場合の食料等の確保が心配」について 自宅や地域での備えを増強してほしい(1週間以上) 「津波と同様に土砂災害も心配」について 土砂災害や津波からの安全な避難が心配な方は、安全な指定避難所に自主避難してほしい (避難所の運営は地域で行ってほしい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者の食料等のサポート体制 ・要配慮者の事前避難先の運営手法 ・観光客に安全に帰ってもらう方法

事前避難先として活用できそうな施設についての意見交換（ワーク）

<p>事前避難先の不足を解決する目的で、活用できそうな施設を住民目線で提案してもらった。</p>	<p style="text-align: center;">その場が出た意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉施設、近隣の旅館、ホテル、民宿 など
--	---

(3) ワークショップ状況写真

【第1回】



【第2回】



【第3回】

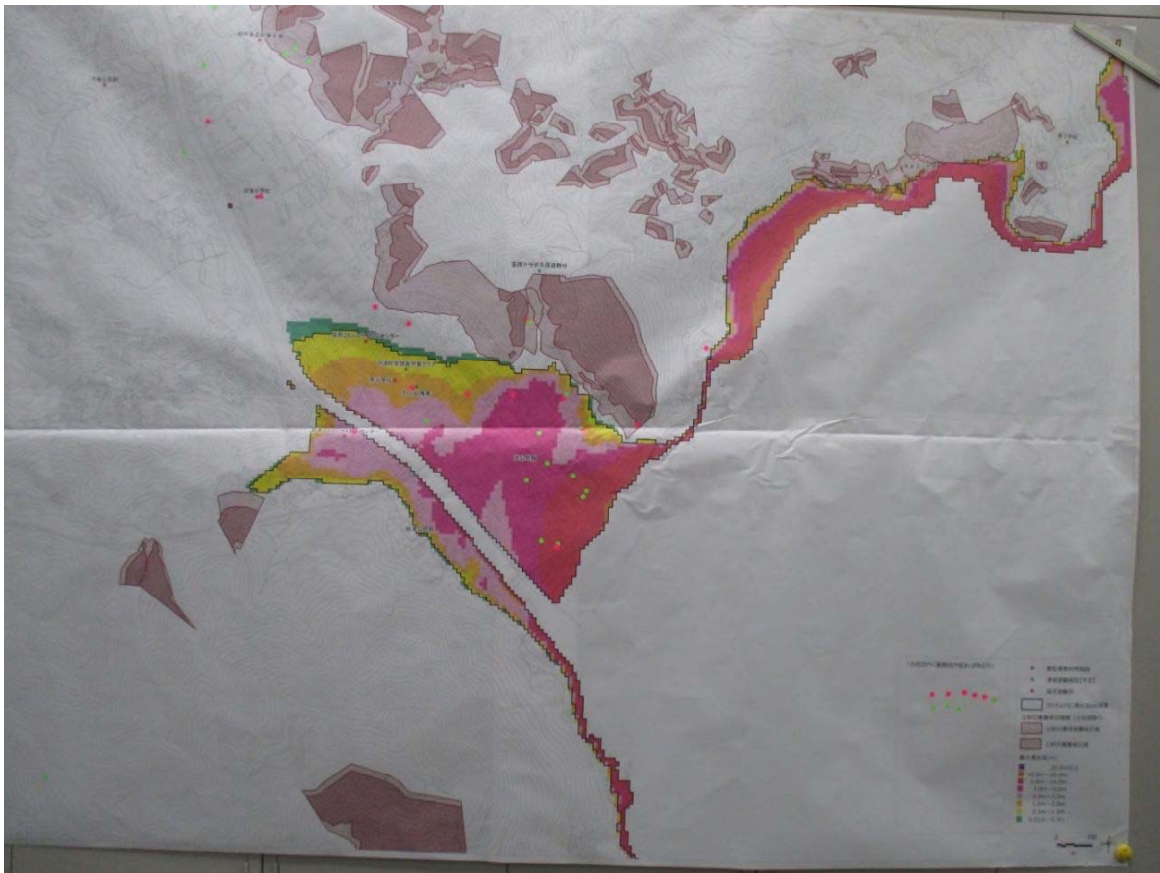


(4) 大判地図での作業結果

第1回ワークショップにおいて、大判地図を用いたワークを実施した。

目的：参加者が自宅・職場（昼夜に居る場所）における地震に伴うリスクを再認識する。

内容：大判地図上に、自宅（●）と職場（●）の位置をシールで貼り、各地点での津波想定浸水深や土砂災害警戒区域の内外かどうか確認するとともに、最寄りの緊急避難場所までの距離を計測する作業を行った。



大判地図での作業結果

(5) ワークショップでのアンケート結果

【第1回】

ワーク① :

設問1 : 住まいの場所（夜間いる場所）の浸水深、土砂災害警戒区域の内外、耐震性

設問2 : 働いている場所（昼間いる場所）の浸水深、土砂災害警戒区域の内外、耐震性

設問3 : 同居している家族の構成

設問4 : 避難する際に手助けが必要な方の有無

設問5 : 住まいの場所及び働いている場所から避難する場所との距離

設問1 : 半数以上の方が津波浸水想定区域内に住まいがあると回答した。また、2割ほどの方が土砂災害警戒区域内に住まいがあると回答した。

設問2 : 設問1と同じ傾向であった。

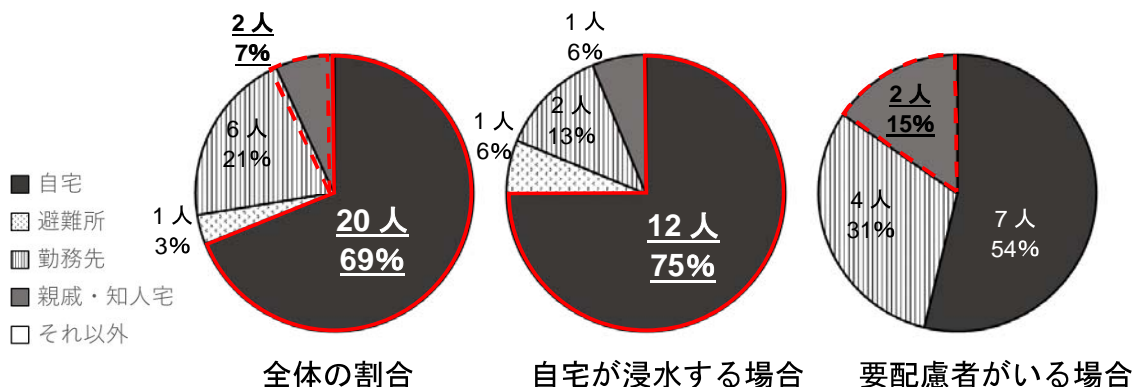
設問3と4 : 同居する家族の構成は、4人以上で同居している方が半数と多く、要配慮者がいる方もほぼ半数であった。

設問5 : 住まいの場所及び働いている場所から避難する場所までの距離は同程度で、平均すると約200m、最大で800mであった。

まとめ : 住まいが津波浸水想定区域内や土砂災害警戒区域内と回答する方が多かった。避難可能範囲（500m～600m）以内の方が8割ほどであり、**地震発生後の避難で間に合う方が大多数であった**。また、「住まいの場所」と「働いている場所」の地震リスクが同じ傾向であることから、住まい近隣で働いている方や、昼夜ともに自宅にいる方が多いと考えられる。

ワーク② : 臨時情報（巨大地震警戒）が発表された時の1週間の行動

自宅が浸水想定区域内外に関わらず、**7割ほどが「自宅で過ごす」と回答した**。また、「親戚・知人宅に行く」と回答した2名はともに要配慮者と同居する方であったことから、要配慮者がいる方は安全なところへ避難する傾向があることが分かる。



【第2回】

ワーク① :

臨時情報発表後の1週間の時間軸（直後、当日、2日目、3～7日目）での行動とその時に心配なこと（「現在の自分」と「年を重ねて自力で動くことが難しくなった場合」）

「現在の自分」、「動くことが難しい場合」ともに2日目以降は自宅で過ごす方が多く、「現在の自分」では、7割程の方が自宅に戻ると回答している。

「動くことが難しい場合」では、2日目以降にも避難所や親類宅で過ごすという回答があり、より「安全な所」に避難する傾向がある。

また、「現在の自分」と「動くことが難しい場合」で同じ行動をとる人は少なく、特に「動くことが難しい場合」では多様な行動パターンが見られた。

心配なことには、地震発生直後に「現在の自分」では高齢の親を事前避難先にどのように移動させるかが挙げられ、「動くことが難しい場合」でも同様に移動手段を心配する意見があった。3～7日目においては、「現在の自分」と「動くことが難しい場合」ともに、食料等の確保を心配する意見が多かった。

「現在の自分」

直後	1日目	2日目	3～7日目	
自宅	自宅	自宅	自宅	10人
緊急避難場所	避難所	自宅	自宅	2人
緊急避難場所	自宅	自宅	自宅	2人
緊急避難場所	親類宅	自宅	自宅	2人
緊急避難場所	緊急避難場所	自宅	自宅	1人
避難所	自宅	自宅	自宅	1人
避難所	避難所	自宅	自宅	1人
自宅	避難所	自宅	自宅	1人
職場	職場	職場	職場	2人
	その他			6人
合計				28人

} 20人 (約7割)

「動くことが難しい場合」

直後	1日目	2日目	3～7日目	
自宅	自宅	自宅	自宅	10人
緊急避難場所	自宅	自宅	自宅	1人
親類宅	自宅	自宅	自宅	1人
自宅	車中泊	自宅	自宅	1人
自宅	避難所	自宅	自宅	1人
緊急避難場所	緊急避難場所	自宅	自宅	1人
避難所	避難所	自宅	自宅	1人
避難所	避難所	自宅	避難所	1人
自宅	避難所	自宅	避難所	1人
自宅	親類宅	親類宅	親類宅	1人
車中泊	親類宅	親類宅	親類宅	1人
職場	職場	職場	職場	1人
	その他			7人
合計				28人

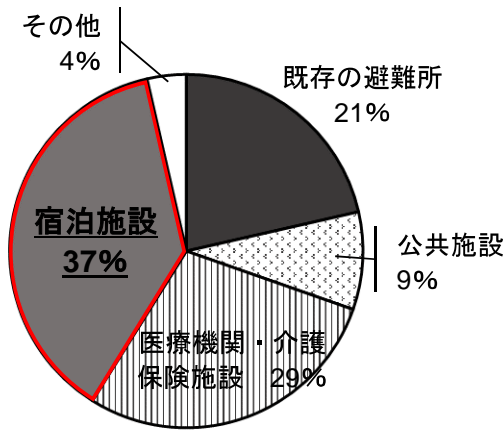
ワーク② 設問 : 示した「検討案」に対して自由に意見聴取

検討案に対して肯定的な意見が多いものの、要配慮者の事前避難に対して多くの課題が挙げられた。また、土砂災害や観光客対策を心配するなど、この地域特有の意見もあった。以下に、主な意見を示す。

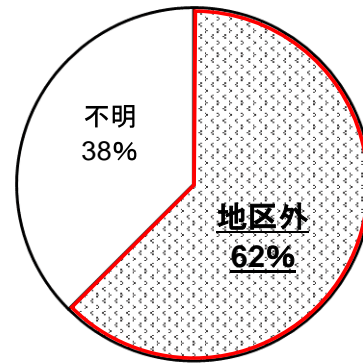
- 要配慮者だけで事前避難するのは難しい
- 事前避難する場合の食料等の確保が心配
- 要配慮者の事前避難先の運営をどうするのか
- 津波と同様に土砂災害も心配
- 観光客に安全に帰ってもらうことが課題

【第3回】

臨時情報（巨大地震警戒）発表後の要配慮者の事前避難先として活用できそうな施設とその理由



施設の分類



施設の立地

※具体的な施設名の記載のないものを「不明」とした

住民目線で事前避難先として利用できそうな施設を挙げてもらったところ、既存の避難所や公共施設の他に様々な施設（左上図）が提案された。特に宿泊施設を挙げる方が多く（約4割）、観光業を主要な産業とする河津町の特徴と言える。

提案した理由として、既存の避難所は、「畳があること」、「広いこと」、「調理室があること」を理由として挙げる方が多い。また、医療機関・介護保険施設は、「バリアフリー」、「バス・トイレがある」、「介護のプロがいる」を理由として挙げており、「普段から利用しているデイサービスであれば高齢者が安心して避難できるのではないか」という意見もあった。

提案された施設は全て浜地区外（右上図）であった。「事前避難であれば時間的な余裕があるため離れた地区でも良い」という意見もあることから、他地域での検討も踏まえて、引き続き広域での事前避難についても考えていく必要がある。

(6) ワークショップ資料

【第1回】説明用資料

「南海トラフ地震臨時情報」を活かした
防災対応を地域で考える会

南海トラフ
想定震源域
想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲

令和元年9月10日
静岡県危機管理部

《本日の内容》

- ①これまでの地震・津波対策
- ②警戒宣言から臨時情報へ
- ③臨時情報を活用した防災対応とは

1

①これまでの地震・津波対策

東海地震説(1976年、43年前)

太平洋岸で起こった過去の大地震と想定震源域
約90~150年周期で繰り返し発生している...

近い将来、
巨大地震が発生？

技術進歩すれば
予知できる

2

①これまでの地震・津波対策

東日本大震災の発生(2011年、8年前)

教訓

- ・南海トラフ巨大地震の想定
- ・レベル1津波とレベル2津波
- ・ハードとソフトを総動員した対策

東海地震の想定震源域
(マグニチュード8クラス、
レベル1津波相当)

南海トラフ巨大地震の想定震源域
(マグニチュード9クラス、レベル2津波)

3

①これまでの地震・津波対策

《本県の地震・津波対策の二本柱》

- ・突然発生する地震への備え
住宅の耐震化、家具の固定、避難タワーの整備 など
- ・「東海地震は予知できる」
地震予知情報の発表、警戒宣言の発令

4

①これまでの地震・津波対策

《河津町に襲撃する津波》

レベル2津波(静岡県第4次地震被害想定)

- ・最大津波高: 13m
- ・津波到達時間: 17分(沖合い30m付近の最短到達時間)

河津町津波避難計画

- ・避難速度: 0.5m/秒(浜地区の健康者)
- ・避難先は原則、津波浸水想定区域外
- ・避難可能な距離は500~600m程度

⇒どのような津波なのか? 動画をご覧ください 5

《本日の内容》

- ①これまでの地震・津波対策
- ②警戒宣言から臨時情報へ
- ③臨時情報を活用した防災対応とは

6

②警戒宣言から臨時情報へ

《本県の地震・津波対策の二本柱》

- ・突然発生する地震への備え
住宅の耐震化、家具の固定、避難タワーの整備 など

・「東海地震は予知できる」
地震予知情報の発表、警戒宣言の発令

7

②警戒宣言から臨時情報へ

2012年～2013年 予測可能性に関する調査部会

地震予知は困難

2016年～2017年 防災対応検討ワーキンググループ


- ・予知を前提とした対応を改めるべき
- ・充実した観測情報を活かすべき


南海トラフ地震臨時情報(2019年5月～)

8

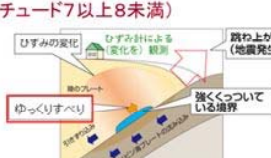
②警戒宣言から臨時情報へ

《臨時情報が発表されるケース》

- 1) 半割れケース(マグニチュード8以上)
 

東側は運動するの？
- 2) 一部割れケース(マグニチュード7以上8未満)
 

前兆？


- 3) ゆっくりすべりケース

9

②警戒宣言から臨時情報へ

《臨時情報の種類》

- 1) 半割れケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)**
- 2) 一部割れケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)**
- 3) ゆっくりすべりケース

10

②警戒宣言から臨時情報へ

《警戒宣言と臨時情報の違い》

	警戒宣言発令時	臨時情報発表時
鉄道	運行停止	原則、運行 継続
病院	外来診療中止	原則、診療 継続
銀行	営業停止	原則、営業 継続

強い規制 → **普段の活動を可能な限り継続**

11

《本日の内容》

- ①これまでの地震・津波対策
- ②警戒宣言から臨時情報へ
- ③臨時情報を活用した防災対応とは

12

③臨時情報を活用した防災対応とは

普段の活動を可能な限り継続

《求められる防災対応》


- 1) 半割れケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)**
 - 日頃からの地震への備えを再確認する
 - 津波到達までに明らかに避難が完了できない住民は1週間の事前避難
- 2) 一部割れケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)**
- 3) ゆっくりすべりケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)**
 - 日頃からの地震への備えを再確認する
 - (必要に応じて避難を自主的に実施)

13

③臨時情報を活用した防災対応とは

《日頃からの地震への備え》

- ・住宅の耐震化
- ・家具の固定
- ・水や食料の備蓄
- ・避難場所や避難経路の確認



これまでも実施
引き続き、いざという時のために準備を！

14

③臨時情報を活用した防災対応とは

普段の活動を可能な限り継続

《求められる防災対応》

- 1) 半割れケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)**
 - 日頃からの地震への備えを再確認する
 - 津波到達までに明らかに避難が完了できない住民は1週間の事前避難
- 2) 一部割れケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)**
- 3) ゆっくりすべりケース → **南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)**
 - 日頃からの地震への備えを再確認する
 - (必要に応じて避難を自主的に実施)

15

③臨時情報を活用した防災対応とは

誰が、どこに、1週間の事前避難をするのか？

そもそも、「半割れ」の場合に
どのような状況になるのか？

⇒マンガをつくってみました

16

《本日のまとめ》

臨時情報(巨大地震警戒)のときは

「日頃の備え」 + α (プラスアルファ)

津波到達までに明らかに避難が完了
できない住民は1週間の事前避難

17

【第1回】アンケート用紙

議論のために、皆さんのこと教えてください。

※ この質問用紙は、今回の集会以外では使用しません。

※ 集会終了後に回収させていただきます。

(回収した用紙は県が責任を持って管理します。)

- あなたのお住まいの場所（夜間いる場所）を教えてください。 ⇒地図に●色シールを貼ってください。

浸水深[]m、土砂災害警戒区域[内・外]、耐震性[有・無]

- あなたが働いている場所（昼間いる場所）を教えてください。 ⇒地図に○色シールを貼ってください。

浸水深[]m、土砂災害警戒区域[内・外]、耐震性[有・無]

- 同居している家族の構成を教えてください。(例：自分、妻、息子2人(幼児、小1)、義父、義母)

[]

- 避難する際に手助けが必要な方の有無を教えてください。該当する口に「し」を記載してください。

なし あり (高齢者(75歳以上)、乳幼児、身体に障害がある方、その他())

- 津波から逃れるために避難する場所を教えてください。

お住まいから避難する場所 [] お住まいからの距離 約[]m

働いている場所から避難する場所 [] 働いている場所からの距離 約[]m

- 本日の説明を聞いてみて、臨時情報（巨大地震警戒）が発表された時、あなたなら1週間どのような行動をしますか？（この他に、本日の説明を聞いてお気づきの点があればご自由に記入してください。）

例) 地震後の避難で間に合うので、自宅で過ごす。

浸水しない勤務地で過ごす。

内陸部の親戚宅や宿泊施設で過ごす。 など